

ライフストーリーの図式化の試み(3)

——体験談のおもしろさ——

大阪大学 川端 亮

1 目的

この報告の目的は、単純な体験談とおもしろい体験談のどこが異なるかを明らかにし、おもしろいライフストーリーを聴き取るために役立つ方法を示すことにある。

2 方法

そのために、UMLを用いて宗教的体験談を記述する。体験談には「ある剥奪状態にあって、願ったり祈ったりという宗教的な行為を行って、その結果、ご利益がもたらされる」という基本的な状態の変化がある。これをまず状態遷移図で図式化する。

そのほかにもさまざまな宗教的体験談があるだろう。劇的で奇跡的な体験談が必ずしもおもしろいとは限らず、劇的すぎてたとえ同じ信仰をもつ人でも信じ難かったり、特別な人にもみ生じる体験談だと思われるかもしれない。おもしろい体験談として、以下の例を用いる。

最初の問題としてアル中になるまで父が飲酒をするという状況があり、そのような父が大嫌いな娘がいた。娘は宗教に入信し、信仰を続けて10年、ある日「父さん、幸せになって」と祈ることができた直後、父は「もう酒は飲みたいとは思わなくなった」といい、ピタリと酒をやめ、父もその宗教に入信し、幸せになった。一方で、父の飲酒が大きな原因であるが、彼女の子供の頃の家庭状況は悪く、すべてに諦めきった状況にあったのが、信仰を続けるうちに少しずつ希望がわいてきて、最後には「あきらめずに努力を続ければ、必ず道は開ける」と思い、あきらめの心が打破できたと娘は認識するようになる。

3 結果

多様な宗教的体験談を図式化する際に、対象者の意味の転換という点に特に注目する。宗教的な行為の結果もたらされるご利益は、客観的にみて実現したかどうかは問題ではない。本人が、ご利益がもたらされたと思っていれば十分に体験談となる。現在の体験談では、たとえ病気が治らなくてもよかったと思う体験談もよくみられる。つまり、よい結果が伴うことが必須ではなく、それよりもむしろ本人が主観的によかったと思うことが重要なのである。

おもしろい体験談は、もう少し複雑であるかもしれない。体験談の中には、以下のような認識を含む体験談もある。それは、体験談の主体が追求する目的が達成されたと認識し、さらに最初の目的達成には含まれない結果がもたらされたと認識する体験談である。

最初の目的達成（父が酒をやめたこと）は、奇跡的なことともいえるだろう。娘が一生懸命祈ることで何十年も酒をやめられなかった父が完全に酒をやめるということは、多くの信仰を持たない人にとっては納得しがたいことである。ただ、これが本当かどうかを問うことは、体験談としては重要ではない。宗教の体験談としておもしろいのは、それに伴って、あきらめの心が打破されたと娘が気づくことであろう。

4 結論

単なるご利益の話と、例としてあげた意図しないことが起き、複数のご利益がもたらされたおもしろい体験談は、UMLで表すと異なって表すことができる。その違いを明らかにすることで体験談やライフストーリーの聴き取りにどのように役立つのかを論じる。